

湘南キャンパス

たかせ さきり  
高瀬 早桐さん 右

大学院 工学研究科  
応用理化学専攻  
2年次生

高橋 杏奈さん 左

大学院 工学研究科  
応用理化学専攻  
2年次生



「ものづくり学生サミットin湘南」最優秀賞  
デザイン力や提案力を発揮し  
一般企業から高評価を獲得

工学を学ぶ学生を対象に民間企業が課題を出し、有志のチームが提案を行う「ものづくり学生サミットin湘南」。ものづくりの楽しさを体感し、課題解決力を磨くことを目的としたコンペティションで、4回目となる今回は36チーム約200名の学生が参加。7社からの課題を受け、2017年6月から半年間で提案書を作成しました。

高瀬早桐さんと高橋杏奈さんを中心とする女子学生6名のチームは、機械設計を得意とする企業が出した「東海大学工学部公認ゆるキャラ（テクーン）

3Dプリンターで造形されたテクーン（右）とテクーンの原子力工学科バージョン（左）



彩色されたテクーンの模型。テクーン(Teccoon)の名前は、Tokai Engineering(東海大学工学部)、Technorogy(技術)、化けられる動物である(工学には化学が必須)Raccoon(タヌキ)の3つ由来している

各学科バージョンの考案・作成」という課題に挑戦。キャラクターの形状を3D-CADを使って立体的にデザインし、3Dプリンターで造形するというハードルの高い課題でしたが、同じ課題に取り組んだ4チームの中から、高瀬さんのチームが提案した原子力工学科のキャラクターが、みごと最優秀賞に選

ばれました。

チームリーダーの高瀬さんは、全体のまとめ役として提案のコンセプト作りやプレゼンテーション資料の作成を担当。「期日までに仕上げるため、役割分担をして効率的に作業を進めました。企業への提案だったので、社会人としての基本である納期の意識にもつながりました」。デザインを担当した高瀬さんは、第3回のコンペティションで工学部のゆるキャラ「テクーン」を考案し、最優秀賞に輝いた実績があります。「今回は、原子力工学科のシンボルである『原子』をイメージしたパーツをプラスして、原子力工学科らしさを表現しました。企業の方に教えていただいた3Dデザインや技術を他チームの学部生や院生とも共有し、参加した全員がスキルアップを図れるよう努めました」。

4月からは内定先の企業で「人の役に立つものづくりに励みたい」と語る高瀬さんと高橋さん。本学ならではの自由で活発な研究の場で得た知識を未来の職場でも存分に活かしたいと意気込みを語ってくれました。